令和７年５月１５日　JA のと　すいか部会

令和７年産すいか部会 栽培講習会

１　気象・生育概況

（１）定植直後の４月４半旬は高温、それ以降は平年並に推移した。

（２）４月の積算降水量は 81.5 ミリ（平年比 79%）と少なかった。マルチ内の水分が不足していたほ場では、ポリトンネル内で葉焼症状が見られた。

（３）４月 26、27 日、５月４日の強風でトンネルがまくられる被害があった。

（４）５月上旬より中耕作業が実施されている。

（５）北陸地方１か月予報（期間 5/17～6/16）：期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みとなっている。

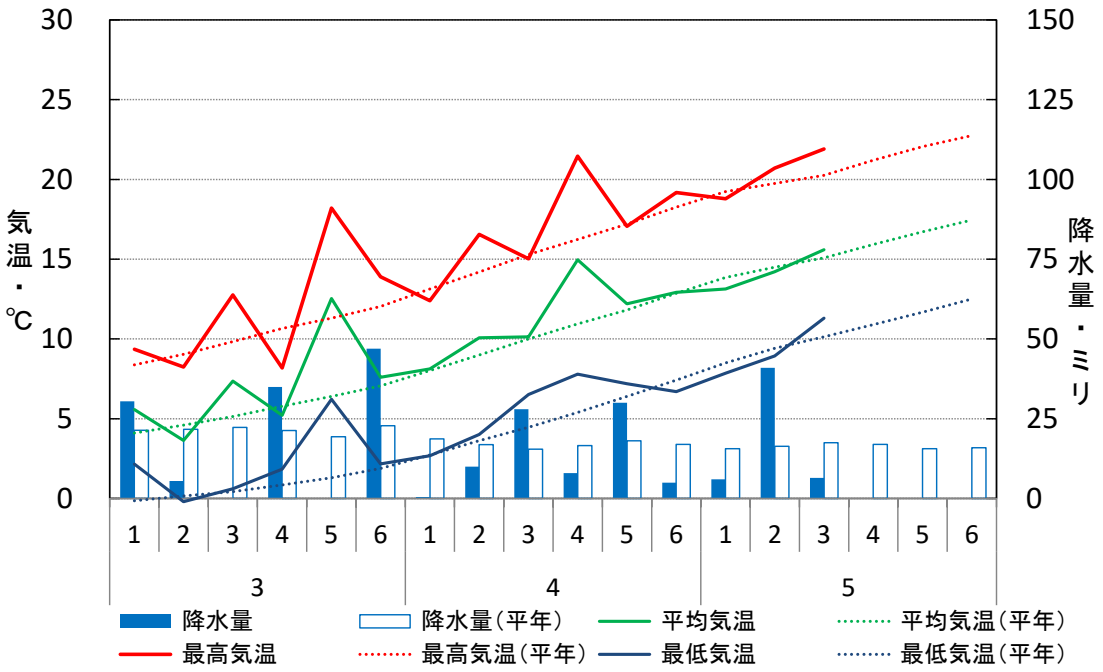

図１．半旬ごとの気象概況（R6.3～8、珠洲市、アメダスデータ）

２　令和７年 すいか基幹防除（案）の注意事項

（１）ネマトリンエース粒剤

従来はネマキック粒剤を記載していたが、使用実態に合わせた剤に変更した。

（２）ゲッター水和剤

令和６年８月で適用拡大になり、収穫前日数が変更になった。

（３）ポリベリン水和剤

登録失効予定の剤であり、農薬に記載されている使用期限までしか使えない旨を強調した。

（４）使用液量（L/10a）の追加

昨年まで使用液量の記載がなかったため、追加した。

３　病害虫の発生予察情報（5/15 予報）

（１）病害

① つる枯病：急増期は６月６半旬以降、発生量はやや多。

② 炭疽病：急増期は６月下旬以降、発生量はやや多。

→ ①、②トンネル除去時、発病初期の防除を徹底しほ場排水に努める。

③ 褐斑細菌病：連続発生、発生量はやや多。ほ場排水に努める。

（２）虫害

① オオタバコガ：連続発生、発生量は多。発生初期の防除を徹底する。

４　品種試作、三崎本：道上部会長ほ場

（１）供試品種

① 祭りばやし UT（萩原農場）
② 紅太鼓（東洋農事）
③ 試行 MW52（神田種苗）

対照：味きらら（大和農園）

５　簡易整枝について（JA のと栽培暦と県指針と見比べて）

（１）１回目整枝：摘心、つる寄せ

・ 本葉 11～12 枚で親づるを摘心、4 節目以下の長い子づるは小さい内に摘み取る。

・ 親づる 5～１２節から発生する子づるの内、生育の揃った 6～8 本を残し他は取り除く。残したつるは、中央にたぐり寄せうね方向に伸ばす。

→ 県指針（中・小型トンネル）：本葉 9～10 枚の頃、8 葉を残して摘芯し、親づるがトンネルと並行になるよう配置する。

→ ねらい：主づるを確保する、株の風とおしを良くする。
子づるが 8 本確保できなくても、孫づるでカバーする。

（２）２回目整枝：整枝誘引

・ うねと直角方向へ、つる先を揃え等間隔に誘引、株元の不要つる、果実を摘み取る。

・ 着果節までの側枝は、数回に分け交配前に取り終える。草勢が弱い時は伸ばして回復を待ち、強い時は交配数日前に一気に取り除く。

→ 県指針：生育が良く、揃った子づると孫づるから 8 本程度の主づるを確保する。着果節以下の側枝は、10～15cm の頃までに生育を見ながら摘除する。

→ ねらい：子づると孫づる合わせて、主づるを 8 本程度確保する。
草勢を調整して、着果体制を整える。

（３）着果時の気温変化に敏感な「味きらら」を安定着果させるには？

・ 着果節以下の側枝は取りきらない。

・ 子づると孫づるの花（雌花、雄花）を活用して、目標の 18～22 節前後（3～4 番花）で一斉着果を目指す。